

# 麦作情報 第3号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

## ●気象概況（アメダス宗像より）

○ 書きは平年値対比

12月	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間
上旬	8.9(0.0)	0.0(-29.9)	55.8(+20.1)
中旬	9.5(+1.8)	15.5(-5.6)	30.0(-2.9)
下旬	8.0(+1.0)	29.0(+3.8)	34.7(-3.2)

12月は、気温が平年より高く降水量が少なく多照で推移しました。今年は、11月中旬から12月中旬にかけて晴天が続いたこともあり、麦の播種作業が順調に進みました。

1月8日の時点で、11月下旬播種の小麦は3葉期、12月上旬播種の大麦は2葉期を迎えています。生育は概ね順調で、今後は生育状況に応じた麦踏み・土入れ等の管理作業を行いましょう。

### 1 排水対策

排水溝の溝さらえを十分に行いましょう。

降雨直後にほ場を確認し畝間に滞水しているようなほ場では、枕地の溝と排水溝がつながるようにしてほ場内の水が速やかに流れ出るようにしておきましょう。



わらが周囲溝につまり滞水している状態

### 2 麦踏み

麦踏みは耐寒性の強化、分けつ促進、倒伏防止および早期茎立ち抑制のために行う作業です。本葉4枚目が出る頃から始め、晴天が続いて土壤が乾燥している日の午後、茎葉の水分付着が少ないときを選んで数回行ってください。茎葉に霜や露があるときに行うと損傷が大きく、土壤水分が高いと土壤をしめつけて麦の生育をさまたげるので、このような場合には行わないようにしましょう。

### 3 土入れ

土入れは、雑草防除、倒伏防止、無効分けつの抑制及び湿害防止の効果があります。乾燥が続いて土壤がよく乾いたときに行いましょう。また、麦踏み前に行い、麦踏み直後には実施しないようにしましょう。1月以降～3月上旬までに2～3回行ってください。

★1回目は浅く、2回目以降は麦の生長に伴って土の量を増やしましょう。

## 4 雑草対策

一部のほ場で、スズメノテッポウなどのイネ科雑草やノミノフスマ、ヤエムグラ、トゲミノキツネノボタンなどの広葉雑草が発生しています。

次の表を参考に雑草防除を徹底してください。

対象雑草	ノミノフスマ、ヤエムグラ、タデ類 トゲミノキツネノボタンなどの広葉雑草	スズメノテッポウなどのイネ科雑草及びノミノフスマ、 トゲミノキツネノボタン、タデ類などの広葉雑草
薬剤名	ハサグラン液剤	ハーモニーDF
使用量(10a)	100～200ml	5～10g
使用回数	1回	1回
希釈水量	70～100ℓ	100ℓ
使用時期	大麦：生育期 (但し、収穫90日前まで) 小麦：生育期 (但し、収穫45日前まで)	大麦：は種後～節間伸長前まで 小麦：は種後～穂ばらみ期まで (但し、収穫45日前まで) (スズメノテッポウは節間伸長前まで)

※ハーモニーDFは、展着剤を加用することで効果が高くなります。

★ ハーモニーDFは、スズメノテッポウ5葉期までの散布で効果が期待できますが、抵抗性を持ったスズメノテッポウには効果がありません。除草剤で対応しきれない場合は、土入れなどにより物理的に対策しましょう。

★ カズノコグサ(湿田で発生が多い)対象にハーモニーDFを使用する場合は、使用量を10g/10aとし、カズノコグサが3葉になるまでに使用して下さい。

★ ハーモニーDFは、周辺に野菜や豆類がある場合散布できません。

※使用後のタンク及び散布器具は、消石灰500倍液を10分間循環させた後、20分間放置し、排出後清水で洗浄してください。

☆ MCPソーダ塩は、幼穂形成期の使用で低温では効果が劣るため、2月下旬以降がおすすめです。次回の麦作情報にて案内します。

## 5 追肥(分けつ肥)

品種	播種時期	追肥時期	肥料の種類と施肥量(10a当たり)	
			NK2号	追肥一発
チクゴイズミ ちくしW2号	11月中下旬	1月下旬	25 kg	グッドIB506 30 kg
	12月上旬	2月上旬		
はるさやか	11月下旬 ～12月上旬	1月下旬 ～2月上旬	20 kg	麦追肥一発2号 20 kg
	12月中下旬	2月上旬		

★追肥の効果を高めるために、施用後は土入れを必ず行ってください。